

# JAXAのロケットに搭載予定

# 超小型人工衛星が完成

## 駒工生有志「念願かない達成感」



打ち上げが予定されている超小型人工衛星をほぼ完成させた駒ヶ根工業高校の生徒たち

人工衛星の製作に取り組んできた駒ヶ根工業高校機械科3年の生徒有志6人が18日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)のロケットに搭載予定の超小型人工衛星をほぼ完成させた。同校の全校課題研究発表会で報告した。打ち上げが実現すれば、国内の高校生としては初の快挙とされる。これまでに磨いてきた加工技術で、精度の高いパーツを製作した高校生たちは「念願かない達成感でいっぱい。打ち上げが成功してほしい」と心を躍らせている。(寺田英祥)

同校では、3年生が取り組む「降って湧いた吉報に喜び勇んだ課題研究の一つに人工衛星を取組む」6人。衛星が稼働するためのプログラムや衛星本体の製作など者たちが製作に携わり、ノウハウについて、地元企業や県内外の大学からの提案を受け、今年、国内の教育機関の協力を得ながら、製作を進めてきた。

人工衛星は材質が定められたアルミニウム製で、大きさは10センチメートル程度、重さは100グラム程度。製作には、同校の機械科3年生が取り組む「降って湧いた吉報に喜び勇んだ課題研究の一つに人工衛星を取組む」6人。衛星が稼働するためのプログラムや衛星本体の製作など者たちが製作に携わり、ノウハウについて、地元企業や県内外の大学からの提案を受け、今年、国内の教育機関の協力を得ながら、製作を進めてきた。

## 打ち上げ成功なら高校生国内初

立万発。昨年6月ごろから試作品を作り始め、9月ごろに本番用の製作に取り掛かった。衛星本体を覆うパネルや支柱となるサイドポール、LED回路の製作などに取り組んだ。

「加工には0.1ミリの精度が大切で、何度も失敗を繰り返した。3年生指導した林厚志教諭は「人工衛星の動作の信頼性を保つため、部品加工や組み立てで精度の高さが問われたが、生徒たちはやってのけた」と胸を張る。完成品は、振動試験や衝撃試験などを突破。今後は親衛星に取り付けた状態で試験などに臨む予定だという。

宇宙では、LEDの点滅によるモジュール信号で「日本の高校生です」と地球に向けてメッセージを発信する予定。リーダーの賀澤颯さんは「天変だったけれど、さまざまな人たちの協力で、ここまで来られた」と感謝し、「打ち上げが成功してほしい」と願った。宇宙について学習するために2年前にオーストラリアに行ったことのある武藤太郎さんは「宇宙に憧れがあっただけに達成感でいっぱい。今後の人生の励みになる」と満面の笑みを浮かべた。



ご購入ありがとうございます

1月19日 (水)

発行所 長野日報社  
〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000代  
©長野日報社2022